

だからわるい2（振り返り）

① 「わたしが思ったこと」

この物語を読んで、男の子たちはただ成り行きを見ていただけだということが分かりました。それと、「見る」と「見守る」のちがいも分かりました。見るはどうなるのかを見ているだけで、見守るは心で支えてくれているということです。

女の人はおこって正しいとじゅぎょうが終わってわかりました。なぜかというと、女の人が助けたりおこらなかつたら、小ねこはいじめをうけたまんまだし、男の子たちはおとなになっても助けないかもしれないから。おこって正しいと思った。

さいしょぎもんと思ったことは、本当に女の方は小ねこを助けようとして犬をおいはらったのかなということ。これが本当なのか確かめながらこの物語を読んでいきました。すると、女の方は男の子たちをおこるために犬をおいはらったんじゃなくて、小ねこを助けようとしておいはらったということがわかった。

② いじめをただ見ることははずかしい

いじめをただ見る、ふつうに見るということは、悪いじゃなくてはずかしいことだとわかった。

はじめは、何も手を出していないのになんでおこるの？おこりすぎじゃない？とか思った。だって、何も手を出さない方が正しいと思っていたから。

次に、二人の男の子たちはただ見ているだけなのか、心配しながら見守っているのかを考えた。さいしょは、心配もしているけど見ているのだと思っていたけど、さし絵を見るとちがった。男の子たちは大きな犬におびえる様子もなく、いじめをただ見下ろしていた。

ここで、真っ赤になっておこっていた女の方が正しいとわかった。

いじめをすることは悪いこと。だけど、それをおもしろがって見ることは、何倍もはずかしい。

紙数の関係で二人の振り返り（感想文）を紹介しました。私が感心したのは、内容の理解はもちろのこと、学級全員（21人）が感想文を提出していること、全員がていねいにていねいに原稿用紙の升目に文字を綴っていること、短い時間でしたが400字原稿用紙いっぱい文章を綴っていることも多かったことです。（短い子どもでも200字でした。）

数人の子どもだけができるのではなく、みんなで協力・協同して学級全員が力をつけ、全員ができるようになる。それが私たち教員の描く理想です。それは決して絵空事ではないことを教えてくれた振り返り（感想文）でした。このような学級にいじめは起こりません。